松阪版
サポートブック



社会福祉法人　松阪市社会福祉協議会

〒 515 - 0073
三重県松阪市殿町1563
ＴＥＬ：0598（23）2941
ＦＡＸ：0598（23）3359
E-mail：chiikifukushi@matsusakawel.com
Ｈ　　Ｐ：http://matsusakawel.com

この冊子は赤い羽根共同募金で作成致しました。

“こころ”が通うコミュニケーションをめざして



H23年3月に策定された「第3期松阪市障がい者計画」から、「松阪市障がい者計画」に日常生活を支える支援ツールとしてサポートブックが位置づけられています。

サポートブックとは、障がい者（児）の特徴や特性、コミュニケーションのとり方や癖、さらに様々な場面での反応の仕方などを、保護者（父母・本人をよく知る者）が、具体的に見やすくまとめたもので、障がい者が支援を受ける際に支援者に読んで利用してもらう携帯型のツール（道具）です。障がい者本人がサポートブックをいつも携帯し、支援者に読んでもらうことによって、自分で伝えられないこと等も相手に理解してもらいやすくなり、心の通い合う支援が受けられるようになります。今後、サポートブックが広く地域で活用されるようになれば、本人の暮らしやすさや安心ある地域生活につながります。

松阪版サポートブック「おたすけブック」



↑地域スクールの様子。みんなで楽しく一日を過ごします。

松阪市では市内の障がい児に対し、長期休暇中にボランティアが1対1で関わる「地域スクール」（旧サマースクール）を開催しています。地域スクールは学校とは異なり、子どもたちがリズム遊びや工作などをして楽しく一日を過ごす場です。同スクールで子どもたちを預かるにあたって、多くのボランティアから“初めて会う子どもたちとどのように接したらよいのだろう”と戸惑いを感じていることを知りました。

そこで、子どもたちの必要な情報が短時間で取り出せ、理解できるようなツールがあればと、H21年にNPO法人エールの会会員、障がい児保護者、行政機関関係者、福祉施設職員、特別支援学校教員、社協職員など、様々な団体・個人に呼びかけ、「サポートブック推進プロジェクトチーム」を立ち上げました。

プロジェクトチーム会議で、サポートブックの内容や形式などの検討を行いながら、自閉症の「のぶ君」の親であり、サポートブックの生みの親でもある丸岡玲子さんの指導のもと、チームメンバーの障がい児のお母さん２人がサポートブックづくりを体験し、使いやすく改良を重ね、松阪版サポートブック「おたすけブック」の原型をつくりました。



↑松阪版サポートブック“おたすけブック”
項目と質問に沿って書いていけば作成できるようになっています。

子どもの気持ちに寄り添い、作る



「おたすけブック」の普及には、保護者の方々に必要性を解ってもらったうえで、記入していただくという地道な作業と、それを子どもたちが活用する土壌づくりが必要です。

「おたすけブック」の作成については、保護者と共に一緒に考えながら書き進めていく『お手伝い会』の実施をしています。それは、ひとりで作業をしていると、記入者の想いがきちんと伝わるような表現が浮かばなかったり、日々の子育て・家事等に追われ、書き込み作業が進まず、挫折してしまうという懸念からです。

「おたすけブック」をつくる過程では、保護者が子どもに当たり前のように対応している事柄をもう一度、客観的に見直し、自分以外の他者に子どものことをどう伝えればよいのかを考える良い機会となります。また、子どもの成長とともに、サポート受ける際に必要な事柄も変化していきます。そのため、その都度、書き込んでいく必要があり、長い目で見ると子どもの成長の記録を残すことにつながります。



↑保護者を対象にしたサポートブックを作成するための「お手伝い会」。子どもの様子について、どんな表現であれば読み手に伝わるかを、先輩お母さんと一緒に考えながら作成していきます。

その人らしい暮らしをささえる

子どもたちが「おたすけブック」の活用を図るには、啓発・普及活動に取りくみ、行政機関や地域の福祉施設関係者、学校関係者、民生委員、ボランティアや地域の方々と協働で活用できる体制をつくっていく必要があります。

ＮＰＯ法人エールの会・松阪市社会福祉協議会は、障がいの有無、年齢や性別などに関わらず、その人らしい生活が営める地域づくりを目指しています。「おたすけブック」を利用することで、支援を受けながら自立した生活ができるように、災害時でも、周囲の被災者の方々の理解を得られて過ごせるように。そして、関わる支援者の戸惑いや負担を少しでも減らしより良い関係をつくれるように。人と人とをつなぐツール（道具）として活用できるようにしていきたいと考えます。



「おたすけブック」の書き方ワンポイントアドバイス



① 書く際は、子どもの目線で簡潔にご記入ください。
子どもの気持ちを考えることで、これまで気付かなかった“新たな発見”があるかもしれませんよ！

② すべてのシートに記入する必要はありません。
その子の障がいや、使う場面に合わせたものを作ってください。
ただし、もしかしたら保護者が『当たり前』だと思う日常も他の人からすると、どうすればいいかわからないことがあるかもしれません。
もう一度、振り返ってみてくださいね。

③ 子どもたちは日々、成長しています。
変化に応じて記載内容を変更していきましょう。

④ サマースクールでは、Ａ６サイズの「おたすけブック」をソフトカードに入れ、リングでまとめて携帯しやすくしました。
誰にどんな時に見てほしいのかを考えて、その方法を工夫してください！



次ページ以降に「おたすけブック」を掲載しております。
下記のポイントを参考にぜひご活用ください。
（データファイルは、松阪市社会福祉協議会のＨＰにあります。）

〔チャームポイント〕
実はこれ、初対面の方にとってもインパクトがあるんです。私の素敵なアピール！ちょっと苦手に感じる事も、少しの印象でとってもいい感じになりますよ！

〔医療情報・医療的ケア〕
必要とする医療情報を病院ごとに作ってみてください。また、こんな状態の時には救急車を呼んで！や、保護者に連絡を！ということも忘れず記入してくださいね。

〔こだわり・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ〕
書いてあるとわかってもらいやすい項目。周りの人が理解しにくいこだわりや、イライラ・かんしゃくにつながるこだわりなどはありませんか？

〔姿　勢〕
安定した姿勢はとても大切です。落ち着ける姿勢や身体のために気をつけている事などを書きましょう。言葉で伝えにくいことは写真で。特に車椅子やバギーの姿勢は写真がおすすめです。

〔食　事〕
アレルギーは必須事項です。色を変えて書いたり、蛍光ペンを使って目立つように。やわらかさや大きさは、写真などがあるとわかりやすく、一口の量や口に運ぶタイミングなどがあると伝わりやすいですね。

〔お風呂・寝るとき〕
お風呂は髪を洗う時の体位など具体的に書くことが本人の安心につながります。寝るときは、普段の就寝・起床時間を入れておくと目安になります。不安や緊張、興奮の時にどうしているのかも書いてみてくださいね。